

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第 46 号

2012年 8月10 日
編集責任者 元木計文
047-355-8526
部 内 資 料

九条の会・浦安 事務局代表をインタビュー 「改憲の企てを止めるために」

「九条の会」が設立されてから8年、この浦安市でも「九条の会・浦安」が設立されてから丸7年になります。しかし、昨年憲法審査会が本格始動し、改憲の動きが強まっています。

6月30日に結成7周年記念総会を開催した「九条の会・浦安」の事務局代表を務める前浦安教会牧師（日本キリスト教団）の小林晃さんに「これまでの活動と今後について」インタビューしました。



学習講座で挨拶中の小林晃
「九条の会・浦安」事務局代表

7年間を ふりかえって...

これまでの活動をふりかえって、「日本国憲法をよく学び、考えて、語り合うことを目的に憲法を前文から各章ごとに学習する学習講座や講演会を継続してきた」と話し、地道な活動をこなすに継続できた裏に、定期的な毎月の事務局会議があること、また活動費は募金で賄っていますが、個人的な負担を少なくするために会員への案内通知などは事務局員がそれぞれ宅配を続けていると、その苦勞も紹介されました。

強まる 改憲の動き

憲法改正原案、日本国憲法に係る改正の発議、国民投票に関する法律案等を審査する「憲法審査会」は6月までにすでに7回開催されています。このように改憲が具体的に国会でとりあげられるようになってきていることは予断を許さない情勢です。

「国家緊急権の規定なきため、震災対応が遅れた」「震災復興の今こそ国のかたちの議論が必要」など、3.11にかこつけて今こそ「創憲」

「論憲」「加憲」と叫び、真のねらいである「9条改憲」に向けて、数の力で国会審議を進めようとしています。

もっと賛同者を 増やしたい！

小林さんは大江健三郎さんなど9人の識者が2004年に賛同を呼びかけた「九条の会アピール」を改めて読み上げて「肌でうなずかざるを得ない文章である」と強調しました。この趣旨に賛同し、「九条の会・浦安」の設立のため

かけ人の一人に加わったとこれまでもを振り返り、「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で立場の違いを超えて手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を」と訴えました。

今後の活動について、これまで7年間、学んできたことをどのように周囲の人たちに伝えていくのか、もっと多くの人に入会してもらうために何をどうすればよいか、会の今後の課題は山積しています。

じっとしてられない！ 「さようなら原発」集会に参加

市議会議員 元木美奈子



7月16日に代々木公園でひらかれた「さようなら原発10万人集会」には17万人が参加。この日、私は17万人の渦の中にいた。こんなに人が集まった集会は、歴史上初めてという記録的なもの。その後の国会包囲集会には20万人が集結。黙ってはいられない人々の抗議の行動が歴史を動かし始めている。

国民は声をあげている

村上 ますえ

――十七万人集会――

「音」を「声」にと集まった

十七万人の集会

続々と詰めかける人々の共通の思いは

「再稼働反対」

「原発NO!」

「フクシマはおわっていない」

のぼりも ゼッケンも うちわも

背中にも 胸にも

思い思いの原発反対の意思を掲げて

炎天下もものともせず集まった

これこそ国民の声

これこそ連帯の力

ベビーカーの子供どもを気遣いながら

車椅子の年寄りをいたわりながら

ユニバーサルな行進は延々と続く

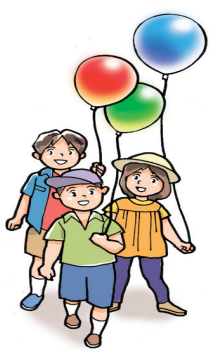
国民の大きな意思を包み込んだデモ

参加した私たちは問いたい

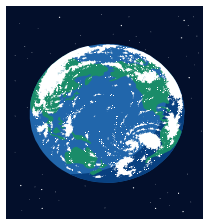
それでも「国民の声」とは聞こえないのか

首相 あなたの「国民」は相変わらず

一%のエリートか



地球環境と光合成生物



IV. 驚異的な光合成生物

地球上の生命は、海で生まれ、地球の環境を変えながら、陸上にも進出してきました。我々が目にする殆ど全ての生物は、光合成生物の行う光合成反応によって、命を維持しています。即ち、生物がいる所では、必ずと言って良いほど、光合成生物がいます。

このことは、南極や北極、ヒマラヤのような高山や砂漠、噴火によってできた溶岩台地等にも当てはまります。これらの厳しい環境の中で、最も問題になるのは水です。

皆さんは、クマムシという生物の事を聞いた事がありますか？乾燥すると仮死状態になり、長期間の乾燥や液体窒素の極低温に耐え、宇宙に放り出されて多くの宇宙線を浴びても、水をかけると生き返るという生物です。では、クマムシはどこにいるのかというと、コケの茂みの中です。と言う事は、コケも種類によっては、乾燥に耐えられる生き物だということです。岩の上や木の幹にコケが生えているのを見た事はありませんか？体が小さく、水分を保持する特別な仕組みを持たないコケにとっては、これらの環境は、砂漠と同じ様な環境です。普通の植物や動物は、一度乾燥させてしまうと生き返る事はありませんが、多くのコケは、乾燥後再給水すると生き返る能力を身につけているのです。屋根や壁にコケを生やし、家屋が熱を持つのを防止しようという方法も、コケの乾燥に対する耐性を利用した物です。

コケよりもっと乾燥に耐性を持つ光合成生物がいます。それは地衣類です。余り聞いた事がないと思いますが、地衣類は私たちの身近にもいます。その場所は、都会でも乾燥しやすい場所であるコンクリートの壁や木の幹などです。

地衣類とは、カビやキノコの仲間と、緑藻やラン藻の仲間が共生している物で、それぞれ単独でも生きられますが、共生する事によって、特別な形を形成する生き物です。



※ 幹の表面に着いている円形の物が地衣の一種です。

旅

一長野県・小谷村ー
梅池自然園 (2012.7.)



車で梅池高原駅まで行き、そこから丁字交差点を右折し、約30分で梅池自然園に到着。標高1800メートルを超える自然園は、ミヤマハナ、ワサビ、シロネ、アザミ、アザミ、アザミなどの高山植物が咲き乱れる楽園でした。一見の価値あり！(M)